

新潟・山木戸遺跡

やまきど



(新潟)

- 1 所在地 新潟市山木戸
- 2 調査期間 一九九四年（平6）五月～八月
- 3 発掘機関 新潟市教育委員会
- 4 調査担当者 小池邦明
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代、奈良・平安時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は阿賀野川旧河道の河口近くの砂丘（新砂丘II-4列に比定）上に立地し、遺構確認面の標高はマイナス〇・五m前後である。一

九九一年度調査に次ぐ第二
次調査として、五九七m²を
調査した。

遺構は、奈良時代の竪穴

住居一棟、平安時代の土坑、
中世の井戸六基、溝一條、

土坑、柱穴が発見された。

奈良時代の遺構・遺物は少
ないが、石帶（巡方・鉈尾

各一点）の出土や、九世紀後半の綠釉陶器・灰釉陶器が周辺の遺跡に比べ多いことから、平安時代では港湾に關係した官衙関連遺跡の可能性もある。中世の遺構は、第一次調査でも掘立柱建物三棟、井戸一一基などが検出されており、集落跡と考えられる。遺物は白磁・青磁・土師質土器・珠洲焼・常滑焼のほか、箸・漆塗椀・曲物・墨書折敷・下駄・硯・錢貨などが出土している。

木簡（墨書折敷）は一二号井戸から出土した。掘形は二一・一m×二・五mの隅丸長方形で、深さ一・三m。井戸枠は一辺九〇cm、深さ六〇cmの方形縦板組みで、中央に水溜めの曲物（径五五cm、高さ五cm）を据える。規模や構造は検出された他の井戸と変わらない。木簡は井戸枠の縦板と横棟の間に挟まれていた。井戸の設置時か修理の際に差し込まれたものであろう。井戸枠の外側下部から笠神窯産の瓷器陶器片・青磁破片が出土しており、井戸の設置年代は一四世紀代と推定される。

8 木簡の釈文・内容

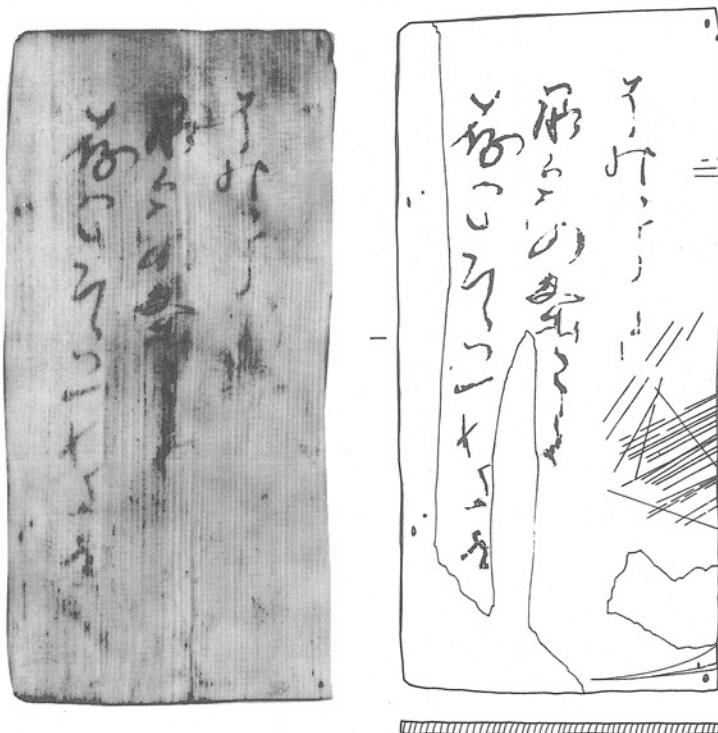
(1) 「その□□

所々の条

存こそハ一□札カ□

269×(128)×5 061

墨書は右半分を欠損する折敷の底部に記されている。左端表面が



剥落しているが、墨書は中央に整えて三行書きされており、この三行で完結するものと考えられる。文意は不明である。なお、釈読及び写真撮影は新潟大学の小林昌二氏による。

新潟・上郷遺跡

新潟県中蒲原郡横越村字上郷
所在地

調査期間
一九九三年（平5）四月～一月

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業
発掘機関

四

調査担当者
赤羽正春

遺跡の種類

遺跡の年代 古墳時代前期・平安時代中頃

遺跡及び木簡出土遺構の概要

上郷遺跡は新潟市の南東約一五kmに位置し、阿賀野川左岸の自



(新潟)

然堤防上に営まれた遺跡である。発掘調査は、国道四九号線横雲バイパスの建設に係り、一九九二年から三年間行なった。調査の結果平安時代中頃の遺構・遺物が主体を占め、遺構は掘立柱建物・土坑・溝・水田・畝状遺構などが検出された